

平成29年度「福島県学力調査」結果について 《中学校第2学年》

福島県教育委員会

1 調査趣旨

全県的な規模で児童生徒の学習の実現状況を調査し、学習指導上の課題及び学習指導の改善点を明らかにし、各学校等における指導の改善に資するとともに、学習・生活習慣及び意識等と学力との関連性を分析し、学校を中核としながら地域や保護者と連携して学力向上に取り組む基盤づくりを図る。

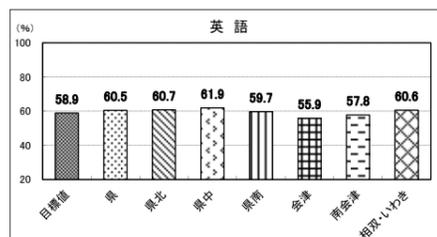
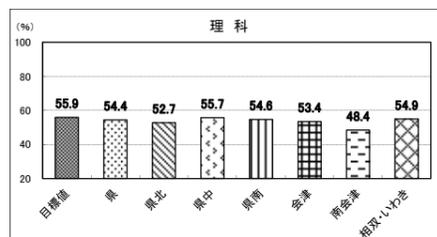
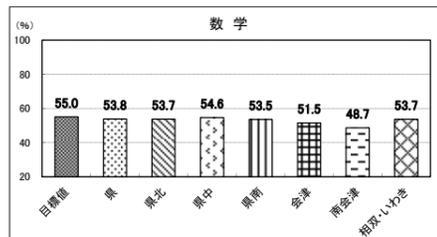
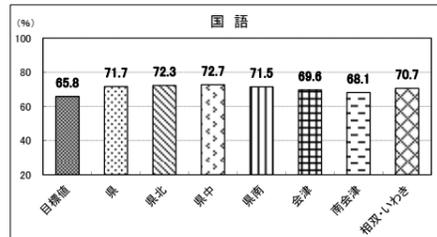
2 実施日程

平成29年11月6日(月)～10日(金)

3 受検人数及び調査時間(中2)

【受検人数】				
国語	数学	理科	英語	意識
15,865	15,869	15,865	15,869	15,871
【調査時間】				
50分	50分	50分	50分	30分程度

4 生活圏別教科平均正答率



5 結果の概要

※目標値：学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合に、正答できることを期待した生徒の割合。

1) 国語

①集計結果(%)

	県	目標値
平均正答率	71.7	65.8

教科全体の平均正答率は71.7%で、目標値を5.9ポイント上回っている。

②カテゴリー別正答率(%)

分類	区分	県	目標値
知識・活用	教科全体	71.7	65.8
	知識	71.1	67.5
	活用	72.8	62.5
領域	話すこと・聞くこと	75.6	65.0
	書くこと	58.5	55.0
	読むこと	75.2	66.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.3	68.1
	国語への関心・意欲・態度	59.6	56.7
観点	話す・聞く能力	75.6	65.0
	書く能力	64.2	58.3
	読む能力	73.1	65.0
	言語についての知識・理解・技能	71.3	68.1

領域別平均正答率では、すべての領域で目標値を3.2～10.6ポイント上回っている。観点別平均正答率でも、すべての観点を2.9～10.6ポイント上回っている。

4) 英語

①集計結果(%)

	県	目標値
平均正答率	60.5	58.9

教科全体の平均正答率は60.5%で、目標値を1.6ポイント上回っている。

②カテゴリー別正答率(%)

分類	区分	県	目標値
知識・活用	教科全体	60.5	58.9
	知識	67.6	66.2
	活用	49.8	47.9
領域	聞くこと	75.4	69.5
	読むこと	50.7	52.9
	書くこと	58.1	56.2
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	69.6	63.7
	外国語表現の能力	50.4	48.5
	外国語理解の能力	62.8	59.7
	言語や文化についての知識・理解	58.0	60.4

領域別平均正答率では、「聞くこと」「書くこと」は目標値をそれぞれ5.9ポイント、1.9ポイント上回っているが、「読むこと」は下回っている。観点別平均正答率でも、三つの観点を1.9～5.9ポイント上回っているが、「言語や文化についての知識・理解」は下回っている。

2) 数学

①集計結果(%)

	県	目標値
平均正答率	53.8	55.0

教科全体の平均正答率は53.8%で、目標値を1.2ポイント下回っている。

②カテゴリー別正答率(%)

分類	区分	県	目標値
知識・活用	教科全体	53.8	55.0
	知識	56.2	57.0
	活用	47.0	49.3
領域	数と式	62.8	62.7
	図形	41.2	46.3
	関数	54.3	53.6
	資料の活用	43.3	47.0
観点	数学への関心・意欲・態度	49.2	50.6
	数学的な見方や考え方	46.8	49.2
	数学的な技能	58.5	58.8
	数量や図形などについての知識・理解	47.9	50.0

領域別平均正答率では、「数と式」「関数」は目標値をそれぞれ0.1ポイント、0.7ポイント上回り、「図形」「資料の活用」はそれぞれ5.1ポイント、3.7ポイント下回っている。観点別平均正答率でも、すべての観点を0.3～2.4ポイント下回っている。

3) 理科

①集計結果(%)

	県	目標値
平均正答率	54.4	55.9

教科全体の平均正答率は54.4%で、目標値を1.5ポイント下回っている。

②カテゴリー別正答率(%)

分類	区分	県	目標値
知識・活用	教科全体	54.4	55.9
	知識	58.7	59.6
	活用	40.3	43.8
領域	エネルギー	41.8	47.5
	粒子	54.7	56.5
	生命	63.0	66.1
	地球	57.3	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	50.4	52.6
	科学的な思考・表現	48.1	50.0
	観察・実験の技能	61.4	62.1
	自然事象についての知識・理解	60.4	61.2

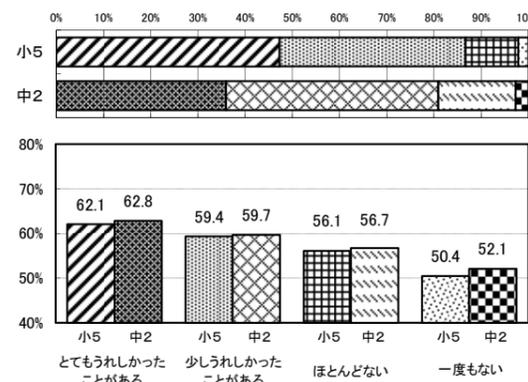
領域別平均正答率では、「地球」は目標値を5.9ポイント上回っているが、「エネルギー」「粒子」「生命」は1.8～5.7ポイント下回っている。観点別平均正答率でも、すべての観点を0.7～2.2ポイント下回っている。

5) 意識調査

※①～④の4項目については、裏面に記載。

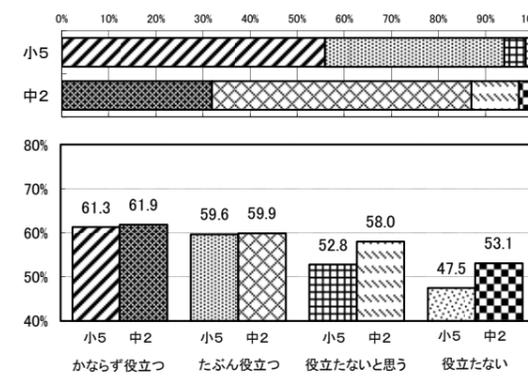
※帯グラフは各選択肢の割合。縦棒グラフは各選択肢を選んだ集団ごとの全教科の平均正答率(小：3教科、中：4教科)。

⑤「自分なりにがんばったことを、先生がみとめてくれて、うれしかったことがありますか」



先生にがんばりを認められて「とてもうれしかったことがあります」「少しうれしかったことがあります」と肯定的に回答している児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。「とてもうれしかったことがあります」と「一度もない」との差は、小学校で11.7ポイント、中学校で10.7ポイントである。

⑥「学校で学んだことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」



学校で学んだことは、将来、社会に出たときに「かならず役立つ」「たぶん役立つ」と肯定的に回答している児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある。「かならず役立つ」と「役立つと思う」との差は、小学校で13.8ポイント、中学校で8.8ポイントである。

①～⑥の質問に肯定的に回答している児童生徒ほど、平均正答率が高いことが分かる。

特に、授業で学習課題を把握すること、友達との話し合いを通して考えをを広げ深めること、自分の言葉で学習内容のまとめ・振り返りを行うことができている児童生徒ほど、平均正答率が高いことが分かる。

これらの結果を踏まえ、「ふくしまの『授業スタンダード』」を活用して、日々の授業改善を図り、児童生徒の学力向上に取り組んでいくことが大切である。